

あさひの
日常生活紹介
 北野 のぞみ

Aさん(横地分類A2)は、周りの生活音の中からも、聞きたい音を聞き分けれます。職員が活動で他の利用者に歌を歌っているとき、歌っている職員の方に顔の向きを変えてじつとみつめています。Aさんの視線に気づき、歌に合わせて手を動かしてみると、足をばたつかせて表情が変わりました。歌のリズムに合った手の動きを楽しんでいる様子を感じます。



手遊び歌の「お寺の和尚さん」は、曲のフレーズに合わせて手の動きが変わることや最後のじゃんけんの前に、間

をあけることで、次にくるフレーズに期待感を持って楽しむことができると考えました。Aさんの側で「お寺の和尚さん」の歌に合わせて手を

動かし歌い始めます。歌が始まると身体の動きや目の動きを止め、じつと歌を聞き入るように、職員の顔をみつめます。「芽が出て〜ふくらんで」のフレーズで、手の動きがちょうど顔の前にきます。そこでなにかをみつけたように、楽しそうな表情に変わりました。手足をバタバタと動かし、視線が手の動きの方へと向きました。歌をゆつくりと歌い、歌と歌の間の長さを変えることで次を期待している様子が見られます。最後の「じゃんけん」と職員の手がぐるぐる回る様子までみつめ、「ぼーん」と手の動きが止まると満足したようにすつとAさん自身の動きも止まります。ひとつひとつのフレーズが短く、リズムカルな歌に、手の動きのリズムを感じやすく、また曲と曲の間を楽しんでいるようでした。

Bさん(横地分類A1)は、身体に触れ姿勢を変えたり、抱きかかえたりすると嬉しそうに笑います。またBさんの側にいき、身体に触れながら話しかけると顔をキョロキョ

ロさせながら聞く様子が見られます。



活動で「かなづちとんとん」の歌いかけを行いました。「かなづちとんとん」は同じ歌詞が繰り返され、一定のリズムが楽しめる曲です。「とんとん」の時に身体に触れ、タツチングのリズムも楽しめるように行いました。身体に触れるとすぐにキョロキョロと目を動かしてタツチングを感じているのが分かります。また、トントンの前に少し長めに間をあけると、まだかまだかと待つように何度も顔もちあげキョロキョロと目が動きます。ぽんと身体に触れるとふーっと身体の力が抜け微笑む様子が見られました。同じフレーズの歌詞が繰り返されることで聞きやすく、間が

あいたときになんでこないのだろう。まだかなあと期待をもつて楽しんで聞いているようでした。

ひかりの子の
日常生活紹介
 齋藤 央子

児童発達支援センターひかりの子(児童発達支援事業)には、1歳から6歳までの子ども達が在籍しています。今回は遊びを通して子ども同士、お互いに関わりあうことを楽しむようになったAちゃんの様子を紹介します。

現在6歳のAちゃん(横地分類B4)は4歳から単独通園が始まりました。通園当初からAちゃんは保育士が「○○しよう」と遊びに誘うと、一緒に遊ぶことができました。しかし、お友達に自ら声をかけて遊ぶことはありませんでした。白い紙とクレヨンを使いお絵描きをしたときのことです。「シユーツと線を描くよ」「グルグル丸を描くよ」という言葉をかけると、線を上手に描きかけました。「上手にできたね」と褒められると目を合わせて笑っていました。描きおえたAちゃんに「Bちゃんは赤いクレヨンで描いてい

るね」と声をかけると、傍で同じ遊びをしている子ども達の様子に意識を向けるようになりました。一緒に遊ぶ経験を重ねる中で、いつも一緒に過ごしている子という気持ち芽生えているようでした。

5歳の頃Aちゃんは周囲の様子に興味を持ち「なんで」という言葉を使うようになりました。質問の内容に答えてほしいというよりは、自分の投げかけた言葉に、返事が返ってくるということが楽しいようでした。まだ子ども同士のやりとりになると恥ずかしい気持ちからか言葉が出ず、職員に気持ちを伝えていました。



AちゃんBちゃんCちゃん1つのテーブルを使い、傍に座ってお絵描きをしました。ふと隣のBちゃんの描い